

第 53 回日本小児神経外科学会参加記

熊本大学病院 脳神経外科
松浦 任

2025 年 6 月 6 日～7 日、奈良春日野国際フォーラムで開催された第 53 回日本小児神経外科学会に初めて参加させていただきました。今回の学会テーマは「責任ある均てん化を目指して、和をもって小児神経外科を成す」であり、日常診療に直結する知見から、研究の最前線を示す報告まで幅広く聴講することができ、大変充実した二日間となりました。

私は脳腫瘍部門にて「リンパ球性漏斗下垂体後葉炎から 3 年後に germinoma と診断された 1 例」についてポスター発表を行いました。腫瘍マーカー陰性かつ抗ラブフィリン 3A 抗体陽性という経過から、当初はリンパ球性下垂体炎と診断された症例が、その後腫瘍性病変へと変化した稀なケースです。発表の際には多くの先生方に立ち寄っていただき、自己免疫機序と germinoma 発症の関連や、下垂体炎診断後の長期フォローの重要性について有意義な議論をさせていただきました。これらのご意見は今後の診療や研究を進める上で大変貴重な指針となりました。

学会全体を通じて感じたのは、小児神経外科という分野の奥深さと、その診療が患児と家族の将来に大きな影響を及ぼす責任の重さです。発表では最新の手術技術や治療戦略のみならず、長期予後や QOL に焦点を当てた報告も多く、診療のあり方を再考させられました。また、若手医師が積極的に発表し、討論に参加できる雰囲気があり、自身も一層発表や研究に取り組もうという意欲が高まりました。

学会の合間には奈良公園で鹿と触れ合う機会があり、学会の緊張感から少し解放されるひとときとなりました。また、食事では奈良の郷土料理である茶粥や柿の葉寿司を味わい、地域に根ざした文化にも触れることができました。

今回の参加を通じ、小児神経外科領域の奥深さと責任の重さを改めて実感するとともに、自らの発表を通して学会に貢献できたことを嬉しく思います。今後は日常診療での経験を積み重ねつつ、再びこの学会の場に成果を還元できるよう努めてまいります。



写真 1：同門の先生方とともに奈良の料理を堪能しました



写真 2：奈良公園の鹿と記念の一枚